

インフルエンザを予防しよう

(スーパーでマスクをかけた春子と夏子がばったり出会う・・・)

春子 「あら夏子、久しぶり・・・」

夏子 「本当に久しぶりだね。ところでどうしたの？春子ちゃん、マスクなんかかけて？風邪でもひいた？」

春子 「違う・違う・・・インフルエンザの予防よ。」

夏子 「インフルエンザの予防？」

春子 「そうよ。人が多いとこにでる時は、マスクをかけて予防するの。それより、夏子こそどうしたの？今日は、仕事、休み？」

夏子 「仕事は休みではないのだけど、孫がインフルエンザにかかったから、学校を休んで家にいるのよ。それで、娘からSOSがきて、臨時のお手伝いさんになって、買い出しにきたわけ。」

春子 「そりゃあたいへんだね。看病する時は、夏子、あなたもマスクかけないと駄目よ。それに、お孫さんにもかけさせないと。」

夏子 「そう？孫にもかけさせないと？孫は、部屋で寝てるのだけど・・・」

春子 「なに言ってるの。インフルエンザは、かかっている人がマスクをかけるのが、大事よ。そうそう、娘さんは、妊娠してなかった？」

夏子 「そうなのよ。でも今、安定期に入ったから大丈夫なのよ」

春子 「そうじゃないよ。妊婦さんは、安定期でも抵抗力が落ちて、あぶないのよ。できるだけ看病は夏子か、ご主人がしたほうがいいのよ。手洗いも、しっかりしないとダメよ。」

夏子 「そうなんだね。娘のことも気をつけてやらないといけないわ。」

春子 「娘さんとは、お年寄りの人は、同居してないよね？」

夏子 「同居はしてないわよ。向こうのご両親は、近所に住んでるけど、大婆ちゃんの介護をしておられるから、息子のとこまで手がまわらないわ。」

春子 「それならいいわ。インフルエンザにかかるのは、子供が多いけど重症になるのはお年寄りの方が多いそうよ。」

夏子 「それは、いけない。私がかかったら、重症になるわ。」

春子 「私たちはまだ若いわ。それに、私たち50〜60代が一番かかりにくいだって！まあ確かに私たちは、ずぶといからね。」

(二人で顔を見合わせて笑う)

春子 「そう言えば、今日、公民館で「インフルエンザ予防」の話があると回覧がきたわ・・・一緒に緒に行ってみようよ！」

夏子 「残念ね。今日は無理よ。私の分まで勉強してきて、また教えてよ。こんなこととしてられんわ、急いで帰らないと娘が待ってるわ。そうじゃ、マスクを買わないと！マスクマスク・・・」

(買い物かごをさげた夏子去る)